

平成23年6月17日

葛飾区生涯学習振興ビジョンの取組について

【平成22年度取組報告】

一人ひとりが輝き「元気なかつしか」をつくる

学びと交流による

“ひとづくり・まちづくり”

生涯学習振興ビジョンの推進について

平成 20 年 11 月、本区の生涯学習の振興を図るために、「葛飾区生涯学習振興ビジョン」を策定し、平成 21 年度から 5 年程度の生涯学習施策の取組の方向と主な施策及び重点施策を示しました。

また「葛飾区教育振興ビジョン（第 2 次）」と併せて、教育基本法第 17 条に基づく葛飾区における「教育振興基本計画」と位置づけました。

この生涯学習振興ビジョンに掲げる施策を総合的に推進するために関係団体の代表や学校関係者等からなる生涯学習振興ビジョン推進委員会を設置し、重点施策の取組などについてご検討を頂くと共に行政評価も踏まえて施策の執行管理をしてきました。

今回は、重点施策の平成 22 年度の取組状況についてまとめました。

本文の構成は重点施策ごとに、概ね平成 25 年度までの方針、次にご検討を頂く「平成 22 年度の取組内容」の説明及び数値目標に対する実績となっています。

なお、この生涯学習振興ビジョンは、区で行っている行政評価を踏まえ推進しておりますが、今回から参考として、重点施策に関連する事務事業の成果指標等を掲載しております。

*平成 22 年度実施事業の行政評価は平成 23 年度に行うため、「(参考) 行政評価」の資料は平成 21 年度実施事業の行政評価となっています。

ただし、成果指標については、平成 22 年度の速報値（平成 23 年 5 月集計）を括弧書きで掲載しました。

目 次

1 区民の多様な「学び」を通して元気な葛飾をめざします

(1) かつしか区民大学の開設	1
(2) わがまち楽習会の実施	3
(3) 郷土と天文の博物館事業の推進	5
(4) 図書館サービスの充実	7
(5) かつしか地域スポーツクラブの推進	9

2 学校と地域が連携・協働し、子どもの育ちを応援します

(1) 学校地域応援団の推進	11
(2) 放課後子ども事業の充実	12

3 地域全体で子育て・家庭教育への支援を進めます

(1) 家庭教育への啓発・支援	14
(2) 子育て・家庭教育に関する学習機会の提供	16

4 生涯学習推進体制の整備を進めます

(1) 生涯学習情報システムの構築	18
(2) 中央図書館等の整備	19
(3) スポーツリフレッシュ事業の推進	20

【取組の方向1】

区民の多様な「学び」を通して元気な葛飾をめざします

(1) かつしか区民大学の開設【生涯学習課】

学びと交流の楽しさを基盤とし、かつしかの特徴や魅力を学ぶ「葛飾学」をはじめ文化・教養、ボランティア、健康、生きがいなど、多様な分野について学ぶ新たな区民の生涯学習の場として、区民大学を開設する。

学習の成果を活かし、学習支援や地域・ボランティア活動等の担い手として活躍できる人材を育成する。

全庁的な連携による講座のほか、区民や団体が参画し企画運営する講座、大学などの教育機関との協働による講座も開設する。

また、区民大学の企画運営への参画や、地域での各種活動の担い手となる人材を「生涯学習マイスター」として認定・登録する制度を設ける。

【平成22年度の取組内容】

「一人ひとりが輝く学びと交流によるひとづくり、まちづくり」の実現のために、学びと交流の楽しさを基盤とした区民の新たな学習の場としてかつしか区民大学を4月に開校し、33コース57講座を実施した。いずれも区民に好評で開校記念講演会も含め、9,974人の区民が受講した。

①開校記念講演会（全5回）の実施

区民大学の開校を広く周知し、多くの区民の参加を促すため、5月に4回、9月に1回開校記念講演会を実施した。

【記念講演会講師・演題】

- 中島啓江（オペラ歌手）「『ありがとう』は魔法のことば」
- 藤田紘一郎（東京医科歯科大学名誉教授）「きれい社会の落とし穴～免疫学からみるアトピーからがんまで～」
- なぎら健壺（フォークシンガー）「“もつ”と下町文化～なぎら健壺かつしかを語る」
- 堀田力（さわやか福祉財団理事長）「あなたが人生の主人公～一人ひとりが輝いて生きる社会に！」
- 福岡政行（白鷗大学教授）「どうなる日本～私たちの生活と日本の明日～」

②行政企画講座の実施

生涯学習課や郷土と天文の博物館、中央図書館、人権推進課、環境課、リサ

イクル清掃課、消費生活センター、高齢者支援課、シニア活動支援センター、地域保健課などで46講座を実施した。

③区民運営委員会による講座の企画、実施

公募区民による23人の区民運営委員が5グループに分かれ、5講座を企画、実施した。「知って作って育てよう葛飾かるた」「あそび心講座“プロに学ぶあそび術”」「食の講座“便利食品”と上手につき合う簡単レシピと試食体験」「かつしか五河川のリバー・クルーズを楽しむ～東京大洪水100年に学ぶ～」「コミュニケーション講座“今年こそ一歩を踏み出すために”」。また、開校記念講演会に運営者として関わった。区民と区の協働の可能性について考える『かつしか区民大学記念フォーラム』を企画・実施した。

④東京理科大学をはじめとする教育機関との連携講座の実施

東京理科大学、東京聖栄大学・聖徳調理師専門学校、共栄大学との教育機関連携講座を区民大学単位認定講座として5講座実施した。

⑤情報誌「まなびぶらす」及びメールマガジンの発行

区民大学を広く周知し、区民大学の講座情報等を知らせるために、情報誌「まなびぶらす」を2回（4月3,000部、9月5,000部）発行した。また、インターネットを活用し、区民大学に関する情報を提供するメールマガジンの定期配信（毎月10日配信）を6月よりスタートさせた。

⑥学習単位認定制度の実施

区民大学受講者の学びの励みとなるように、一定の単位を取得した者に認定証を交付する学習単位認定制度を開始した。（30単位：グッドチャレンジ賞、100単位：かつしか区民学士、150単位：かつしか区民修士、200単位：かつしか区民博士）

平成22年度は、11人にグッドチャレンジ賞を贈呈した。

⑦「かつしか郷土かるた」の制作・普及の取組

区民運営委員会企画の1講座である「知って作って育てよう かつしかかるた」から、「かつしか郷土かるた」の制作普及を目指す活動がスタートした。これは、「葛飾区教育振興ビジョン（第2次）」と「葛飾区生涯学習振興ビジョン」に基づくものでもあり、小中学校と連携を図りながら、児童・生徒とともに作成し、学校教育や地域での活用を図り、郷土愛の醸成を図ろうというものである。平成23年度末に完成予定。

項目	平成 25 年度までの 目標(累計)	平成 22 年度までの 実績(累計)	平成 21 年度実績
講座実施数	延べ 162 コース	延べ 49 コース	16 コース
受講者数	延べ 13,875 人	延べ 12,634 人	2,660 人
マイスター認定者数	延べ 75 人	0 人	0 人

(参考) 行政評価

施策名 学習活動支援

施策意図 多様な情報や機会を得て、自主的に学習活動を行っている。

関係のある事務事業

区民大学	事務事業意図		①区民の自己実現を支援する多様な学習機会の創出 ②地域に貢献できる人材育成の実施 ③区民の参画、協働による運営の実施	
			21 年度目標 (22 年度目標)	21 年度実績(22 年度速報値)
	成果 指標	延べ受講者数	175 人 (2,000 人)	1,020 人 (3,657 人)
		参加者満足度	90% (90%)	90% (91%)

*受講者数は、区民大学単位認定講座のうち、区民大学経費で実施した講座の受講者数。

(2) わがまち楽習会の実施【生涯学習課】

区民のくらしの向上に役立つテーマの学習や、地域の連帯感を醸成するためのイベントなどを通して、区民が楽しく学び、考え、交流し、仲間づくりをすすめる機会として「わがまち楽習会」を実施する。

地域との関係が希薄といわれる団塊の世代をはじめ、幅広い層の区民に働きかけ、地域の課題に関心をもつ区民を増やし、区民力や地域力の向上につなげていく機会とする。

【平成 22 年度の取組内容】

①わがまち楽習会

区と協働で「わがまち楽習会」を試行実施する 3 団体と内容等の企画検討会をそれぞれ開催し、事業を実施した。

各団体の実施事業内容・テーマ等は次の通りである。

○新小岩まちづくり協議会と地域の緑化、花のまちづくりをテーマとしたワークショップを開催し、地元中学校の公道に面した側道を活用した花壇づくりとその整備に取り組んだ。終了後も自主的にグループを結成し、定期的に花壇の整備を行いながら地域の緑化活動に取り組んでいる。

○J A東京スマイル営農研究会と、水元地域でひとり暮らしの高齢者に給食サービスの活動をしている団体等と協議を重ね、農地が多い水元地域の特性を活かして農と食について学ぶ機会を設けた。農作物を実際に育てる作業を4班に分かれて行い、収穫した野菜を使つての調理などの学習体験活動を行った。

○青少年育成青戸地区委員会と協働し、地域の大人を対象に中学生の居場所づくりの意義と方法についての連続学習会（4回）を実施した。あわせて中学校と地域人材の協力を得て、部活動等に参加していない中学生が気軽に地域の大人との交流を図ることができる居場所づくりとして、3回の料理教室を行った。

②地域運営モデル事業

堀切・新宿の両地域で行われているモデル事業は3年目に入り、地域の関係者でつくる堀切大凧揚げ大会実行委員会、新宿地域事業推進連絡会がともに定例的に会合を重ね、それぞれ独自に事業の企画・運営にあたっている。

堀切地域においては、第3回目となる堀切大凧揚げ大会を1月に開催した。また、地域の子どもたちに凧の文化を伝えるための新たな取り組みとして「親子凧づくり教室」を12月に実施した。

新宿地域においては、連絡会が主体となって取り組む「脳力(のうぢから)トレーニング教室」を継続実施しているほか、昨年度、初めて開催した地域交流イベント「ザ・にいじゅくフェスタ」が好評だったことから、平成22年度も同様の地域交流イベントを10月に実施し、地域住民相互の交流を深めた。

項目	平成25年度までの 目標(累計)	平成22年度までの 実績(累計)	平成21年度 実績
実施地区(団体)数	延べ40地区(団体)	延べ11地区(団体)	6地区(団体)

(参考) 行政評価

施策名 学習活動支援

施策意図 多様な情報や機会を得て、自主的に学習活動を行っている。

関係のある事務事業

成人対象 講座	事務事業意図	①地域の課題を解決するための糸口を発見し、豊かなまちづくりを担う力を身につける。②継続的・系統的な学習意欲をもち、自ら学習を組み立てる力や自己表現力を養う。③同じ課題や学習要求をもつ者同士が人間関係を作り、団体活動や地域活動をする契機をつかむ。				
		21年度目標（22年度目標）		21年度実績(22年度速報値)		
	成果指標	延べ参加者数	6,800人	(9,300人)	9,249人	(12,652人)
		参加者満足度	90%	(90%)	93.8%	(92%)

(3) 郷土と天文の博物館事業の推進【生涯学習課】

郷土と天文の博物館は、生涯学習・教育施設として、幅広い層の利用を促進し、生涯学習・学校教育活動でのより一層の活用を図るため、常設展示について調査・研究を基に展示替えを実施するほか、特別展等では他地域の博物館などと連携・共同展示を進める。

また、収蔵資料の活用を図るため、データベース化をさらに進める。

講座については、体験を取り入れた体験型学習を充実し、プラネタリウム番組の制作では、海外のプラネタリウムや国等の天文機関と連携し、共同番組制作を進める。

【平成 22 年度の取組内容】

博物館独自のホームページの構築については、平成 23 年 4 月の開設に向け、区ホームページ所管課の広報課と細部にわたって調整を行った。また、ホームページの設計を博物館と委託先とで開始すると共に、現行の収蔵資料管理システムをホームページ公開用に改修を行った。なお、各種イベント情報は、区のホームページを使って発信した。

他の博物館や関係機関と連携した事業としては、第 1 回国際科学映像祭（関東一円の 31 の科学館・プラネタリウム館が参加、期間：9 月 11 日～10 月 11 日）に参加し、特別番組を放映した。

小学校 5・6 年生を対象とした葛飾の歴史について体験的に学ぶ「かつしか郷土塾」は全 6 回を終了した。また、宇宙への関心を育む「かつしか宇宙塾」は全 6 回をそれぞれ終了した。小学校 4 年生を対象とする「かつしか宇宙塾ジュニア」は、11 月から全 5 回で開講したが、東日本大震災の発生により 3 月開催分を中止とした。

中学生を対象に英語を使い宇宙について学ぶ「スペースカレッジ」(全4回)は、5月～7月にかけて予定通り終了した。

項目	平成25年度目標	平成22年度実績	平成21年度実績
博物館ホームページへのアクセス件数(年間)	9,000件	平成23年4月デジタルミュージアム開設	平成23年4月HP開設準備

項目	平成25年度までの目標(累計)	平成22年度までの実績(累計)	平成21年度実績
プラネタリウム番組制作数(*)	85本	34本	20本
児童向け体験学習受講者数	延べ5,700人	延べ2,346人	1,401人

*うち海外プラネタリウム等との共同企画や天文機関と連携した番組制作数延べ5本

(参考) 行政評価

施策名 学習活動支援

施策意図 多様な情報や機会を得て、自主的に学習活動を行っている。

関係のある事務事業

維持管理	事務事業意図		来館者が利用目的に沿って気持ちよく利用できるよう施設を良好に維持管理する。	
			21年度目標(22年度目標)	21年度実績(22年度速報値)
	成果指標	入館者数	68,000人 (68,000人)	69,962人 (70,623人)
プラネタリウム番組制作	事務事業意図		区民に天文学を通して現代の宇宙観や地球的・宇宙的な視点と、科学的に考える面白さを知っていただく。学校教育においては、教室での指導が困難な天文分野をプラネタリウムを活用して行うことで、理科教育の充実を図る。	
			21年度目標(22年度目標)	21年度実績(22年度速報値)
	成果指標	観覧者数	43,000人 (43,000人)	47,610人 (50,098人)
		観覧者満足率	90% (90%)	94% (94%)

(4) 図書館サービスの充実【中央図書館】

区民の一人ひとりの学習活動を推進するため、生涯にわたり自主的な学習を行う社会教育施設としての機能を充実していく。区民の身近な『知の拠点』として、これまでの図書・資料の提供による学習支援に加え、地域が抱える課題の解決やビジネス、医療・健康、福祉などに関する情報や資料等の情報提供サービスを整える。

また、学校図書館支援、子どもの読書活動の推進などに引き続き取り組む。

平成 22 年が国民読書年と定められたことを受けて、読書に親しむきっかけをつくる事業を展開していく。

【平成 22 年度の取組内容】

利用者が必要な時に必要な図書や情報を効率的に受け取ることができるよう、ICTを活用した図書館サービスの提供を進め、公立図書館広域ネットワークや区内外の教育機関との連携により、情報資源の活用、提供をした。

また、情報拠点として必要とされているビジネス支援、医療、法律等の情報を収集するとともに、中央図書館では、ビジネス相談会（毎月 1 回計 12 回 39 人）やデータベース講習会（4 回計 65 人）、ビジネス講演会（4 回 139 人）を開催した。さらに、ビジネスパソコンとして、インターネットやデータベースが検索できるパソコンを設置し、幅広く情報を提供している。

新学習指導要領や「子どもの読書活動推進に関する法律」の施行を踏まえ、乳幼児期から青年期までの読書環境の向上を図るため、蔵書構成を考慮し、図書利用や読書のきっかけとなる行事としておはなし会（計 134 回 2,107 人）などを実施した。また、保健所、保健センターとの連携によりブックスタート事業（計 108 回 4,036 回）を行い、親子で本に親しむきっかけとしている。

小中学校との連携を深めるために公立図書館・学校図書館連絡会（計 22 回 243 人）を開催した。新宿図書センターでは、学校図書館の支援、団体貸出用パックの配送を行うための準備を進めている。保育園、児童館等とは、園招待、連絡会（計 453 回 13,426 人）により連携体制を深めている。

これらの事業を着実に進めていくための「子ども読書推進計画（第 2 次）」（平成 23 年 6 月策定予定）の検討委員会を設置し、2 月には素案をまとめパブリックコメントを実施した。

平成 22 年は「国民読書年」であり、読書に親しむきっかけとして、一般から中高校生、乳幼児までの様々な年齢層を対象に、講演会やイベントや図書館所蔵資料図録の作成等を行った。

高齢者や障害のある方が快適に利用できるよう、各図書館に合わせたユニバーサルデザインを採用している。障害者サービスを理解し、より利用していた

だくために、障害者（視覚障害者）とボランティア、ヘルパーの方を交えた四者懇談会（1回50人）や音訳ボランティアの活動を支援するための音訳ボランティア講座（計9回305人）等を開催した。また、中央図書館ではICTを活用した音声対応の資料検索機や音声拡大読書機など、読書支援機器等の読書環境を整備し、障害のある方の情報収集、活用を援助している。サービス面では、ボランティアの協力による録音図書・点訳図書や、拡大写本の導入、宅配サービスなど今まで行ってきたハンディキャップサービスを継続し推し進めている。

項目	平成25年度目標	平成22年度実績	平成21年度実績
図書・資料の貸出数(年間)	360万冊	367万冊	327万冊
区内の図書サービスを利用したことがある区民の割合(*)	36%	37.7%	32.2%

*葛飾区政策・施策マーケティング調査

(参考) 行政評価

施策名 図書サービス

施策意図 多様な方法で、必要な図書サービスを受けられている。

関係のある事務事業

維持管理	事務事業意図		<ul style="list-style-type: none"> ・快適で、利便性の高い図書館施設を維持し、区民の読書活動を始めとする生涯学習環境を整備する。 ・学習や生活に必要な資料や情報、豊かな余暇を過ごすための図書資料等を、区民誰もが自由に入手できるよう図書サービスを行う。 	
			21年度目標（22年度目標）	21年度実績（22年度速報値）
	成果指標	貸出者数	950,000人（1,100,000人）	1,077,864人（1,317,259人）
来館者数		2,400,000人（2,700,000人）	2,607,867人（3,125,508人）	
図書館資料等提供	事務事業意図		<ul style="list-style-type: none"> ・快適で、利便性の高い図書館施設を維持し、区民の読書活動を始めとする生涯学習環境を整備する。 ・学習や生活に必要な資料や情報、豊かな余暇を過ごすための図書資料等を、区民誰もが自由に入手できるよう図書サービスを行う。 	
			21年度目標（22年度目標）	21年度実績（22年度速報値）
	成果指標	年間貸出数	3,200,000冊（3,270,000冊）	3,268,920冊（3,674,249冊）
区民一人あたりの蔵書数		2.8冊（2.9冊）	2.85冊（2.76冊）	

(5) かつしか地域スポーツクラブの推進【生涯スポーツ課】

身近な地域で、健康で生き生きと暮らすために、年齢や興味・関心・技術レベルなどに応じて、定期的・継続的にスポーツに親しむ地域スポーツクラブを育成する。

育成にあたっては、育成検討委員会においてモデル地域を選定し、設立に向けた手法やノウハウの蓄積と課題を検証しながら進め、当面区内7か所への設立を目指し、区民への理解と協力を深めていく。

クラブの運営は区民が主体的に行い、子どもが地域でスポーツをしたり、地域の大人たちが子どもとスポーツをしたり、高齢者がスポーツに親しんだりするなど、区民がスポーツに「する・見る・支える」などさまざまな形で携わり、地域交流や地域貢献を重ねながら、健康・体力の維持増進、地域コミュニティの形成、子どもの健全育成を醸成する。

【平成 22 年度の取組内容】

葛飾区スポーツ振興計画に基づき、教育委員会と体育協会、体育施設指定管理者が連携協力して、生涯スポーツの振興や競技力の向上に取り組んできた。特に区民が身近な地域でスポーツ活動に親しむための地域スポーツクラブについては、生涯学習振興ビジョンの重点施策として次の通り取り組んだ。

① 育成検討委員会（全区的育成活動）

12月に育成検討委員会を開催し、設立後のクラブ会員や運営スタッフの意識調査について検証し、今後の各クラブ運営に反映させるとともに、あわせて各地域別の体育指導委員に対する意識調査を実施し、第3モデル地域の選定資料やクラブ育成支援の基礎資料として活用することとした。

② 第1モデル地域の育成支援

設立後2年半が経過した「こやのエンジョイくらぶ」では、平成22年度、定期プログラムを19種目から21種目へ増加して運営し、平成23年3月末現在で会員登録数324人となり年間延べ15,259人が活動した。このほか、6月には「菖蒲まつり」へのプログラム協力、8月には児童・生徒向けの「夏休みこども体験教室」と、子ども達に人気の運動靴「瞬足」を発売する企業の協賛で順天堂大学と連携した「瞬足陸上教室」を実施、10月には地域貢献イベント「スポーツフェスタ」を実施した。また、区との協働事業として「チアダンス教室」を幼児から中学生を対象に3クラス、1期10日間で4期を実施した。なお、設置したクラブハウスを会員の交流の場や文化的プログラムの会場として活用している。

なお、3月には地域貢献PRイベント「桜フェスタ」を計画していたが、地

震のため中止となった。

③ 第2モデル地域の育成支援

設立後1年が経過した「オール水元スポーツクラブ」では、15種目の定期プログラムが運営され、平成23年3月末現在で会員登録数225人となり年間延べ10,370人が活動した。このほか、12月に地域交流イベント「ふれあいフェスタ」を実施した。水元体育館内に設置したクラブハウスは事務局として活用している。

なお3月には1周年イベント「アニバーサリーフェスタ」を計画したが、地震のため中止となった。

項目	平成25年度までの目標(累計)	平成22年度までの実績(累計)	平成21年度実績
設立クラブ数	3か所	2か所	2か所

項目	平成25年度目標	平成22年度実績	平成21年度実績
地域スポーツクラブ加入者数	600人	549人	461人

(参考) 行政評価

施策名 スポーツ事業

施策意図 多様なスポーツの機会が提供されて、区民が楽しくスポーツを続けている。

関係のある事務事業

総合型スポーツクラブ 育成	事務事業意図		区民が自主的に運営する総合型地域スポーツ育成し、多世代が多様なスポーツを身近な地域で楽しむ事が出来るようにする。	
			21年度目標(22年度目標)	21年度実績(22年度速報値)
	成果指標			
	地域スポーツクラブ加入者数		330人 (500人)	461人 (549人)
	年間プログラム総参加人数		15,000人 (21,000人)	15,158人 (25,629人)

【取組の方向 2】

学校と地域が連携・協働し、子どもの育ちを応援します

(1) 学校地域応援団の推進【地域教育課】

学校教育を支援する「学校地域応援団」を各学校に設置し、児童・生徒の学習支援や教育環境の整備、安全活動等に、地域が学校に協力して取り組む仕組みづくりを行う。

【平成 22 年度の取組内容】

学校地域応援団については、平成 22 年度、新たに 8 校（葛美中学校・末広小学校・葛飾小学校・常盤中学校・綾南小学校・柴又小学校・東金町中学校・上小松小学校）で発足し、計 18 校（小学校 13 校、中学校 5 校）となった。

主な活動としては、学習支援、教育環境整備、学校図書館ボランティア、伝統芸能や文化の伝達、サタデーチャレンジ（土曜補習教室）、安全・安心まちづくり、朝のあいさつ運動、児童スポーツの支援など、これまで各学校が地域との協力のなかで行ってきた取組を基盤とした活動が実施されている。また、葛美中学校の夜間補充教室「がんばらナイト」（毎週火曜日・金曜日）など、地域人材・保護者を新たに活用した事業も始まった。

各応援団で団員募集などの人材を確保する取組が行われ、平成 23 年 3 月末現在の参加ボランティア数は、延べ 16,000 人を超えている。

地域コーディネーターの交流、情報交換、コーディネーターとしての役割について理解を深めるために、コーディネーターミーティングを 2 回、研修会を 1 回開催した。また、3 月には学校地域応援団活動の内容を、広く区民にも知らせることを目的とした、活動報告会を 1 回開催した。

項 目	平成 25 年度目標	平成 22 年度実績	平成 21 年度実績
ボランティア参加者数(年間)	14,000 人	16,186 人	6,211 人
外部評価アンケート(*)	80%	79%	79%

*学校教育アンケート「学校は保護者や地域の人などが積極的に教育活動に関われるように工夫しているか」についての肯定的な回答の割合

(参考) 行政評価

施策名 家庭や地域との連携

施策意図 学校、家庭、地域が連携し、より豊かな教育活動が行われている。

関係のある事務事業

学校地域応援団事業	事務事業意図		学校家庭地域の協力により豊かな教育環境を作り出すとともに学校を核とした地域コミュニティの形成に寄与する。	
			21年度目標(22年度目標)	21年度実績(22年度速報値)
	成果指標	学校地域応援団数(校) 延べ校数	5校 (15校)	10校 (18校)

(2) 放課後子ども事業の充実【地域教育課】

放課後や土曜日、三季休業中の学校施設を活用し、地域の方々の見守りのもと、放課後子ども事業（わくわくチャレンジ広場）を全小中学校で実施し、子どもたちの安全で楽しい遊び場を提供している。活動を通じて子ども同士や地域の大人との交流のなかで、自主性や社会性を育んでいく。

現状の子どもたちは、学ぶ習慣や体験しチャレンジする心、ルールを守る心や人間関係を構築する力などに弱い面があり、このような課題に対し、学校教育と放課後子ども事業が連携し、協力し合って対応していくことが必要であることから、教育面に配慮しつつ活動内容の充実を図っていく。

【平成 22 年度の取組内容】

活動内容の充実については、平成 20 年度から自由遊びを基本に学習、文化・スポーツプログラムを学校と連携しながら実施し、平成 21 年度末で 11 校であったが、新たに 5 校増え、実施校は 16 校となった。

対象学年の拡大については、平成 19 年度から 3 年生を中心に対象学年の拡大に取り組み、平成 22 年度末で 3 年生以上を対象とした学校は 27 校となった。引き続き地域の理解と協力を得ながら対象学年の拡大に取り組んでいく。

項 目	平成 25 年度目標	平成 22 年度実績	平成 21 年度実績
児童の登録者数	10,500 人	10,135 人	10,294 人

(参考) 行政評価

施策名 青少年育成事業

施策意図 青少年のための活動機会が整い、活発に活動している。

関係のある事務事業

放課後子ども事業（わくわくチャレンジ広場）（運営）	事務事業意図	子どもたちが自主性や社会性・創造性等を身につける。			
		21年度目標（22年度目標）		21年度実績（22年度速報値）	
	成果指標	登録率	80%（80%）	84.2%	（80.8%）
		1日平均の参加率	20%（20%）	17.7%	（17.6%）

【取組の方向3】

地域全体で子育て・家庭教育への支援を進めます

(1) 家庭教育への啓発・支援【地域教育課】

「早寝・早起き、朝ごはんコンサート」の実施や「早寝・早起き、朝ごはん食べようカレンダー」の作成、ノーテレビ・ノーゲームデーの実施を通して、子どもの生活習慣確立の大切さを啓発していくとともに、保護者の主体的な取組を促していく。また、「家庭教育のすすめ」を作成し、家庭教育の重要性についての啓発普及を進めていく。

さらに、PTA活動への支援や学校地域応援団の取組を活用しながら、保護者相互の交流、学校との協働関係を通して、家庭の教育力向上のための支援を促進していく。

【平成22年度取組内容】

①早寝・早起き、朝ごはんコンサートの実施

「早寝・早起き、朝ごはんコンサート」は9会場、15団体（幼稚園2園、小学校2校、保育園11園）で実施し、延べ1,324人が参加した。また、家庭教育フォーラムとしてノーテレビ・ノーゲームデーの取り組みも呼びかけた親子コンサートを土曜日に1回開催し、119人（保護者61人、子ども58人）の方が参加した。

②早寝・早起き、朝ごはん食べようカレンダーの作成

平成23年度版カレンダー発行のため検討委員会を設置して作成した。また、6月に区立小学校の児童を対象に朝食の摂取率、就寝時間について調査を行った。

③PTA研修会の開催

PTA活動支援として広報研修会、小・中学校PTA合同研修会等を開催した。

○広報研修会

PTA広報紙づくり入門

参加者 404人

○小・中学校PTA合同研修会

全6分科会

参加者 733人

○小・中PTAブロック別研修会

全12ブロック（小8ブロック、中4ブロック）

参加者合計 1,593人

④ノーテレビ・ノーゲームデーの取組

リーフレットを配布し、家庭の自発的な実践を働きかけるとともに、家庭での取組を支援できるよう、幼児やその親と接する機会の多い児童館、区立保育園職員を対象に「ノーテレビ・ノーゲームデー」の研修会を6月8日に開催し、89人の参加があった。

⑤家庭教育啓発リーフレット「かつしか家庭教育のすすめ」の作成

「子どもの生活習慣向上・家庭教育支援関係者会議」において「かつしか家庭教育のすすめ」の作成、発行を決定し、作成検討委員会を発足させ、「幼児～小学校低中学年用」(19,500部)と「小学校高学年～中学生用」(13,500部)の2種類のリーフレットを作成した。9月初旬より保育園、幼稚園、小・中学校を通して各家庭に配布した。

また、活用を促進するために、青少年委員定例会での「かつしか家庭教育のすすめ」の内容・活用方法の解説、本田中学校での、新1年生の保護者を対象とした講演会、PTA向けの小学校第6ブロック研修会、金町小学校での入学説明会、お花茶屋地区委員会での学習会等、地域、保護者が参加する場所や機会をとらえて、啓発を行ってきた。

項 目	平成25年度目標	平成22年度実績	平成21年度実績
平日午後9時30分までに就寝した児童の割合(小学校低学年)(*)	75%	76%	69%
平日午後10時までに就寝した児童の割合(小学校高学年)(*)	60%	63%	56%

*「早寝・早起き、朝ごはん食べようカレンダーに関する」による児童の生活習慣に関する基礎データ調査

(参考) 行政評価

施策名 家庭や地域との連携

施策意図 学校、家庭、地域が連携し、より豊かな教育活動が行われている。

関係のある事務事業

家庭教育支援事業	事務事業意図		子どもの生活習慣の確立、子育ての知識の普及を通して家庭の教育力の向上を図る。	
			21年度目標（22年度目標）	21年度実績（22年度速報値）
	成果指標	平日、午後10時までに就寝した児童の割合（高学年）	55%（60%）	56%（63%）

（2）子育て・家庭教育に関する学習機会の提供【地域教育課】

子どもの年齢や発達にあわせた講座の実施をはじめ、保護者や各種団体が行う学習活動を支援することにより、子育て・家庭教育の学習機会の拡大を図っていく。

【平成22年度の取組内容】

① 子育て講座

子育て支援部、保健所との連携により、1歳児3コース、2歳児5コースの子育て講座を実施し、528組、延べ1,106人が参加した。

各コースとも年齢に合わせた子どもの発達や健康、食事や生活習慣、親同士の交流を図ることを目的とした講義を行うとともに、父親の子育てへの参加を促すプログラムを実施した。

② 子育て・家庭教育応援制度

P T A、父母会、子育てに関わるサークルなど延べ37団体の自主的な学習活動に講師を派遣した。なお、平成22年度の派遣の内訳は次のとおりである。

〔平成22年度派遣団体数〕

幼稚園6（うち父母会関係2）、保育園24（うち父母会関係3）、

小学校P T A2、その他団体5 計37団体

学習会の内容としては、生活習慣、食育、絵本の読み聞かせ、就学前の準備など、家庭教育にかかわる多様な内容を団体が主体的に決定している。

項 目	平成 25 年度までの目標（累計）	平成 22 年度までの実績（累計）	平成 21 年度実績
子育て・家庭教育講座の参加者数	延べ 5,895 人	延べ 2,201 人	1,095 人
子育て・家庭教育応援制度の利用団体数	延べ 213 団体	延べ 72 団体	35 団体
子育て・家庭教育応援制度の参加者数	延べ 8,550 人	延べ 3,867 人	1,740 人

（参考）行政評価

施策名 家庭や地域との連携

施策意図 学校、家庭、地域が連携し、より豊かな教育活動が行われている。

関係のある事務事業

家庭教育支援事業	事務事業意図		子どもの生活習慣の確立、子育ての知識の普及を通して家庭の教育力の向上を図る。	
			21 年度目標（22 年度目標）	21 年度実績（22 年度速報値）
	成果指標	延べ講座参加者数	3,500 人（4,200 人）	4,133 人（4,676 人）

* 講座参加者数には、早寝・早起き、朝ごはんコンサート参加者数を含む。

【取組の方向 4】

生涯学習推進体制の整備を進めます

(1) 生涯学習情報システムの構築【生涯学習課】

区民の生涯学習への参加を促し、学習活動が充実・活性化し、交流が進むように、インターネットを活用した生涯学習情報システムの整備を行う。

区民がいつでもどこでも気軽に、学習機会や施設、人材・指導者、教材等の学習情報が入手でき、かつ実際に活動している団体などの活動や成果にもアクセスできる情報システムを検討し、構築する。

【平成 22 年度 of 取組内容】

インターネットを活用した生涯学習情報の提供をさらにすすめるために、平成 23 年 3 月の区ホームページのリニューアルに合わせて区が行う講座・イベントなどの区民への情報提供をより活用しやすく整備した。あわせて区ホームページによる人材情報の提供については、生涯学習人材バンクの登録者情報の詳細について掲載するなどの整備を行った。

団体・サークル情報の提供については、団体情報の収集や更新方法、システム開発などについて引き続き検討していく。

(参考) 行政評価

施策名 学習活動支援

施策意図 多様な情報や機会を得て、自主的に学習活動を行っている。

関係のある事務事業

学習相談・ 学習情報の 提供	事務事業意図		21 年度目標 (22 年度目標)		21 年度実績 (22 年度速報値)	
	成果 指標	相談件数	860 件 (870 件)		868 件 (768 件)	
			区民が適切な学習情報やアドバイスを得ることにより、より効果的な学習活動ができる。 団体活動に関するアドバイスや情報を得ることにより、団体活動が活性化する。			

(2) 中央図書館等の整備【中央図書館】

中央図書館を金町駅南口再開発事業地内に移転し、区内図書館のセンター機能の強化及び、区民の多様なニーズに応えられるよう、開館時間の延長やICTサービスの拡大を進めることで、区民の多様な学習の場を提供する。

専門的な資料や地域資料を充実させ、より高度なレファレンスを提供することで、ビジネス支援や課題解決に向けた生活支援、及び図書館を軸としたボランティア活動の支援を目指す。

また、立石図書館の建替、地区図書館の整備を進めていく。

【平成 22 年度 of 取組内容】

平成 21 年 10 月 17 日に開館した中央図書館は、平成 22 年 4 月 1 日から今年 3 月末日までの 1 年間の入館者数は 1,316,878 人（1 日平均 3,817 人）と、大人から子どもまで予想以上の来館者数である。中央館主催の事業のほか、図書館友の会が実施するナイトシアター（計 11 回 363 人）などの事業についても利用者が多く、またビジネス関係のセミナーについても予想以上の参加を得た。10 月から 1 周年記念イベントを、前年と同様に図書館主催と図書館友の会主催の 2 本立てで行なった（おはなし会 3 回、参加者 127 人、おひざにだっこのおはなし会 3 回、参加者 61 人、ビジネスセミナー 2 回、参加者 63 人、児童講演会 2 回、参加者 96 人、一般講演会 2 回、参加者 80 人）。

立石図書館の建替えについては、工事が完了し、書架などの備品や書籍を購入して平成 23 年度開館にむけ準備調整中である。また、併設施設のかつしかエコライフプラザを所管するリサイクル清掃課と運用等についての協議も進めている。

南奥戸小学校の余裕教室を利用して開設する奥戸地区図書館は、夏休みから始まった工事が完了し、書架等備品の購入を行い、平成 23 年 4 月 2 日にオープンした。

項 目	平成 25 年度までの 目標（累計）	平成 22 年度までの 実績（累計）	平成 21 年度までの 実績
図書館の 整備	新中央図書館の開設	開 設	平成 21 年 10 月 17 日 に開館
	立石図書館の改築	竣工、開館準備	改築工事着工
	図書センター	新宿図書センターの 開設	新宿図書センターの 開設（平成 21 年 10 月 17 日）
	地区図書館の整備	奥戸地区図書館の竣 工、書架等備品購入	（仮称）奥戸地区図 書館の設計終了

(参考) 行政評価

施策名 図書サービス

施策意図

多様な方法で、必要な図書サービスを受けられている。

関係のある事務事業

立石図書館 建設	事務事業意図		施設の老朽化に伴い建替え、読書に親しめる環境を整備するとともに、駅に近いという利点を生かしビジネス支援業務を強化していく。			
			21年度目標(22年度目標)		21年度実績(22年度速報値)	
	成果指標	実施設計の完成度	100%	(100%)	100%	(100%)
		工事進捗率	25%	(100%)	25%	(100%)

(3) スポーツ施設のリフレッシュ事業の推進【生涯スポーツ課】

多種多様な区民ニーズに的確に対応できるスポーツ施設を整備する。特に、スポーツやレクリエーション活動の中核施設となっている総合スポーツセンターの改修整備、設備機器の更新を行い、安全で安心して快適に利用できる施設環境を整える。

水元体育館(体育館・温水プール)の老朽化が激しいため、フィットネスパーク整備事業として改築を進める。また、水元中央公園部分も含めたスポーツ公園としての整備を行う。

【平成22年度の実施内容】

総合スポーツセンター等の体育施設の管理運営、スポーツコース事業については、平成18年度から体育施設指定管理者が担ってきた。民間企業の利点を取り入れた運営により体育施設の利用者数も平成17年度の1,731,718人から平成22年度は1,933,096人と増加している。

しかし、昭和59年の開館以来26年が経過し、施設面での経年劣化が見られるため安全で安心して快適に利用できるよう平成17年度に実施した建物診断結果をもとに、緊急性の高い項目から改修整備を行った。

総合スポーツセンター体育館の屋上防水を主眼とした屋根改修工事は、平成22年10月20日から23年1月末日までで工事が完了した。

総合スポーツセンター体育館の電気設備、給排水設備及び空調設備についての実設計が3月に完了した。

フィットネスパーク整備事業については、平成 23 年 3 月に基本設計(体育館・公園・道路)を完了した。

項 目	平成 25 年度 目標	平成 22 年度 実績	平成 21 年度 実績
スポーツ施設の区民の満足度 (身近な所にスポーツを楽しめる施設がありますか) (*)	60%	50.9%	54.4%

葛飾区政策・施策マーケティング調査

(参考) 行政評価

施策名 スポーツ施設

施策意図 スポーツの場が整い、区民が楽しくスポーツを続けている。

関係のある事務事業

運動場整備	事務事業意図		体育施設の整備や改修を行い機能の充実を図り、区民が安心して利用できる生涯スポーツの場を提供する。			
			21 年度目標 (22 年度目標)		21 年度実績(22 年度速報値)	
	成果指標	区民全般が安心して利用できる野球場、球技場の整備数(面)		31 面	(31 面)	31 面
区民全般が生涯スポーツの場、健康増進の場として気軽に利用できるテニスコートの整備数(面)			23 面	(23 面)	23 面	(23 面)

平成22年度 葛飾区生涯学習振興ビジョン各種委員会等組織図

【生涯学習振興ビジョン推進委員会】◆委員長：教育長

【生涯学習振興ビジョン推進委員会幹事会】◆幹事長：教育振興担当部長

■区民の多様な学びの支援

- 【重点施策】
- 「区民大学」の開設
 - わがまち学習会の実施
 - 郷土と天文の博物館事業の推進
 - 図書館サービスの充実
 - かつしか地域スポーツクラブの推進

■学校と地域の連携・協働

- 【重点施策】
- 学校地域応援団の推進
 - 放課後子ども事業の充実

■子育て・家庭教育の支援

- 【重点施策】
- 家庭教育への啓発・支援
 - 家庭教育に関する学習機会の提供

■生涯学習の推進体制の整備

- 【重点施策】
- 生涯学習情報システムの構築
 - 中央図書館等の整備
 - スポーツ施設のライフリッシュ事業の推進

【特別委員会】

郷土と天文の博物館運営協議会

かつしか地域スポーツクラブ育成検討委員会

学校地域応援団実行委員会

放課後子どもプラン推進事業運営委員会

子どもの生活習慣向上・家庭教育支援関係者会議

子ども読書推進計画（第2次）検討委員会

かつしか区民大学理事会

